

事業の概要

1 食肉衛生検査状況

(1) と畜検査頭数

平成20年度における総検査頭数は72,044頭で、畜種別内訳は、牛は7,592頭(和牛2,143頭、乳牛5,449頭)、豚は64,424頭、とく11頭、めん羊7頭、山羊9頭、馬1頭であった。年間の1日当たりの平均検査頭数は、牛32頭、豚268頭であった。

(2) 検査結果に基づく措置

検査の結果、と体の一部を廃棄するなどの処分をした総頭数は32,117頭(総検査頭数の44.6%)であった。

ア 禁止

牛1頭を膿毒症でと殺禁止とした。

イ 全部廃棄

全部廃棄頭数は211頭で、畜種別では牛159頭、豚52頭であった。原因別では、豚丹毒7頭、膿毒症28頭、敗血症28頭、尿毒症5頭、高度の黄疸16頭、高度の水腫109頭、牛白血病12頭、全身性の筋肉変性6頭であった。

ウ 一部廃棄

筋肉、内臓の一部を廃棄したものは、31,905頭で、畜種別では牛5,423頭(処分率71.4%)、馬1頭(100%)、とく9頭(81.8%)、豚26,466頭(41.1%)、めん羊4頭(57.1%)、山羊2頭(22.2%)であった。

(3) 病畜検査

生体検査時に起立不能、歩行困難等の異常があるなど、何らかの疾病が疑われた893頭の病畜を検査したが、畜種別では、牛873頭(97.8%)、とく6頭(0.7%)、豚14頭(1.6%)であった。

検査の結果全部廃棄処分したものは154頭(牛152頭、豚2頭)であり、畜種別の全部廃棄率としては牛17.4%、豚14.3%であった。

(4) TSEスクリーニング検査

平成13年10月18日からBSEスクリーニング検査(エライザ法)を開始し、平成17年10月1日からはめん羊・山羊についてもスクリーニング検査を実施している。平成20年度の検査頭数は7,618頭(牛7,591頭、とく11頭、めん羊7頭、山羊9頭)であり、検査結果は全て陰性であった。

ア 月別と畜検査頭数

月	総頭数	牛			馬	とく	豚	めん羊	山羊	開場日数
		和牛	乳牛	計						
4	5,579	162	428	590			4,985	2	2	21
5	5,336	163	442	605			4,731			20
6	5,367	151	427	578		2	4,785		2	21
7	5,590	190	490	680		5	4,905			21
8	5,173	142	466	608			4,565			19
9	6,117	185	465	650			5,466		1	20
10	6,941	223	486	709		2	6,229		1	22
11	6,419	229	494	723			5,695	1		18
12	6,739	204	504	708		1	6,030			19
1	6,218	161	417	578	1		5,636		3	19
2	6,162	165	414	579		1	5,580	2		19
3	6,403	168	416	584			5,817	2		21
20年度合計	72,044	2,143	5,449	7,592	1	11	64,424	7	9	240
19年度合計	71,081	2,103	5,407	7,510	0	14	63,547	1	9	242
前年度比(%)	101.4%	101.9%	100.8%	101.1%	-	78.6%	101.4%	700.0%	100.0%	99.2%

イ 月別病畜検査頭数

月	総頭数	牛			馬	とく	豚	めん羊	山羊
		和牛	乳牛	計					
4	56	5	50	55			1		
5	64	9	55	64					
6	62	7	54	61		1			
7	85	4	79	83		2			
8	88	7	80	87			1		
9	95	8	83	91			4		
10	95	2	90	92		2	1		
11	71	1	68	69			2		
12	78	6	71	77		1			
1	70	8	61	69			1		
2	62	5	55	60			2		
3	67	5	60	65			2		
20年度合計	893	67	806	873	0	6	14	0	0
19年度合計	864	70	771	841	0	7	16	0	0

ウ 産地別搬入頭数

産地	牛	馬	とく	豚	めん羊	山羊
鳥取市	807		1	1,770		
岩美町	15			1,040		
八頭町	337					
若桜町	91					
智頭町	13					
(東部地区計)	1,263	0	1	2,810	0	0
倉吉市	665		1	3,268		
湯梨浜町						
三朝町	56		1			
北栄町	400		3	5,813		1
琴浦町	3,710	1	4	12,198		
(中部地区計)	4,831	1	9	21,279		1
米子市	32			33	3	1
境港市				31		6
南部町	75			293		
伯耆町	72			7		
日吉津村						
大山町	1,043			38,764	3	1
日南町	137			1,193		
日野町	8					
江府町	26		1	4		
(西部地区計)	1,393	0	1	40,325	6	8
鳥取県合計	7,487	1	11	64,414	6	9

産地	牛	馬	とく	豚	めん羊	山羊
北海道						
青森県						
岩手県						
宮城県						
秋田県						
山形県						
福島県						
茨城県						
栃木県						
群馬県						
新潟県						
富山県						
石川県						
長野県						
岐阜県						
静岡県						
愛知県						
三重県						
滋賀県						
京都府						
兵庫県	1					
和歌山県						
島根県	28			10		
岡山県	58				1	
広島県	17					
山口県						
徳島県						
香川県						
愛媛県	1					
高知県						
佐賀県						
長崎県						
熊本県						
大分県						
宮崎県						
鹿児島県						
沖縄県						
県外合計	105	0	0	10	1	0
総計	7,592	1	11	64,424	7	9

才 病類別一部廃棄頭数

区分	疾病名	牛			とく	豚
		和牛	乳牛	計		
呼吸器系	肺炎(SEP様)					10,926
	“(ヘモフィルス様)					331
	“(その他の型)	77	226	303	2	2
	肺膿瘍					251
	胸膜炎	408	1,278	1,686		9,565
	小計	485	1,504	1,989	2	21,075
循環器系	心外膜炎	11	176	187	1	3,170
	心筋炎	3	11	14		
	小計	14	187	201	1	3,170
消化器系	胃炎	189	416	605	2	3
	胃潰瘍	1	2	3		
	腸炎	52	364	416	3	5,954
	腸間膜水腫	2	8	10		19
	腸間膜脂肪壊死	253	33	286		
	腸結節虫	1	70	71		
	腸間膜抗酸菌症					1,318
	腸気泡症					3
	肝炎(膿瘍型)	77	250	327	1	
	“(鋸屑肝型)	642	1,185	1,827	1	
	“(胆管炎型)	51	29	80		
	“(その他の型)	21	56	77		775
	肝包膜炎	69	326	395		4,427
	退色肝	37	465	502	1	3,287
	肝硬変	3	20	23		13
	肝富脈版	49	135	184		
	肝蛭症	12		12		
	寄生肝(豚回虫)					1,515
	腹膜炎	3	61	64	1	496
小計	1,462	3,420	4,882	9	17,810	
泌尿・生殖器系	腎炎	77	239	316	1	1,328
	膀胱炎	41	129	170	1	37
	子宮内膜炎	50	240	290		31
	乳房炎		219	219		
	小計	168	827	995	2	1,396
運動器系	放線菌症	4	2	6		
	膿瘍	12	63	75	1	2,243
	関節炎	9	202	211	2	230
	骨折	3	22	25		22
	脱臼	4	51	55		3
	筋肉変性					59
	水腫	32	215	247	1	168
	褥瘡	4	186	190	1	676
	筋出血(打撲)	248	695	943	1	
小計	316	1,436	1,752	6	3,401	
炎症による内蔵全廃						506
腫瘍						2
黄疸						
合計		2,445	7,374	9,819	20	47,360
廃棄実頭数		1,538	3,885	5,423	9	29,286

カ 病畜疾病別検査頭数

病名		畜種			とく	豚	合計
		和牛	乳牛	計			
全部廃棄	膿毒症		8	8			8
	敗血症	2	6	8		1	9
	尿毒症		3	3			3
	高度の黄疸		13	13			13
	高度の水腫	5	104	109			109
	豚丹毒						
	白血病	1	10	11			11
	筋肉変性					1	1
	小計	8	144	152		2	154
循環器系・呼吸器系	心外膜炎		2	2			2
	肺炎	6	9	15			15
	肺膿種		1	1			1
	胸膜炎	2		2			2
	小計	8	12	20			20
消化器系	鼓脹症		2	2			2
	弛緩症		3	3	1		4
	四胃変位	1	55	56	1		57
	創傷性胃炎		1	1			1
	胃炎	1	13	14			14
	腸炎	3	26	29			29
	腸間膜脂肪壊死	5	1	6			6
	腹膜炎		18	18			18
	肝炎	2	6	8			8
	肝膿瘍	2	8	10	1		11
	胆管炎						
	肝硬変		1	1			1
	肝蛭症	1		1			1
小計	15	134	149	3		152	
泌尿器・生殖系	腎炎	1	1	2			2
	膀胱炎						
	尿石症	3	7	10	1		11
	臍ヘルニア						
	子宮蓄膿症		11	11			11
	子宮内膜炎	1	5	6			6
	子宮捻転		1	1			1
	子宮脱・膣脱		4	4			4
	脱肛						
	乳房炎		147	147			147
難産	2	3	5			5	
小計	7	179	186	1		187	
運動器系	骨折	3	15	18		2	20
	関節炎	6	161	167	2	4	173
	脱臼	4	43	47		3	50
	骨軟症	1		1			1
	膿瘍		2	2		1	3
	筋間出血	2	2	4			4
	筋間水腫		4	4			4
	蹄病	2	18	20			20
	フレグモーネ		3	3			3
	小計	18	248	266	2	10	278
その他	放線菌病	2		2			2
	熱射病		2	2			2
	産後起立不能症	2	50	52			52
	原因不明起立不能症	2	18	20		2	22
	腫瘍		2	2			2
	その他	5	17	22			22
小計	11	89	100		2	102	
合計		67	806	873	6	14	893

(5) 試験室内検査実施状況

ア 行政検査（精密検査）

精密検査（と畜検査に係る検査）の実施頭数は632頭で、検査延件数は8,167件であった。

イ 受託検査

（株）鳥取県食肉センターから77件の委託を受けて細菌検査を実施した。

ウ 調査研究

と畜場内で採材した51頭の病理標本を作製し、食品衛生月間に器具や手指のふき取り検査を行い、また厚生労働省の委託を受けた厚生科学研究のチームに加わり、細菌検査を行う等、5,595件の検査を実施した。

エ TSEスクリーニング検査状況

7,618頭（牛7,602頭、めん羊7頭、山羊9頭）全頭につきTSEスクリーニング検査をおこなったが、その全てが陰性であった。

試験検査の状況

(ア) 行政検査（と畜検査に係る検査）

畜種	検査区分	検査頭数	顕微鏡検査	微生物検査	病理組織検査	理化学検査	検査延件数
牛		341	184	3,562	155	75	3,976
豚		291	377	3,796	17	1	4,191
合計		632	561	7,358	172	76	8,167
平成19年度		572	629	6,515	229	70	7,443

(イ) 受託検査

項目	検査区分	受託件数	顕微鏡検査	微生物検査	病理組織検査	理化学検査	検査延件数
ふきとり検査	牛	26		26			26
	豚	51		51			51
合計		77	0	77	0	0	77
平成19年度		74	0	74	0	41	115

(ウ) 調査研究

項目	検査区分	検査頭数	顕微鏡検査	微生物検査	病理組織検査	理化学検査	検査延件数
一般病理検査		51			88		88
微生物汚染防止		231	179	1,201			1,380
拭き取り（汚染源追求）		91		273			273
精度管理		7		19		10	29
厚生科学研究		368		3,563			3,563
その他		125		93		169	262
合計		873	179	5,149	88	179	5,595
平成19年度		78	137	120	204	0	461

(エ) T S E スクリーニング検査状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
分類	ア 生後24ヶ月齢以上の牛のうち、生体検査において運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経障害が疑われるもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	イ 生後30ヶ月齢以上の牛	173	167	145	237	166	195	211	219	198	156	177	174	2,218
	ウ その他(ア及びイ以外の牛)	417	438	435	448	441	455	500	504	511	422	403	410	5,384
	エ めん羊、山羊	4	0	2	0	0	1	1	1	0	3	2	2	16
	計	594	605	582	685	607	651	712	724	709	581	582	586	7,618
	陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 と畜場等の衛生管理指導

(1) 枝肉等の衛生度把握

と畜場の衛生状態を把握するため、枝肉及び器具類の拭き取り検査を実施し、検査結果に基づき衛生指導を行った。

拭き取り検査結果

区分	項目	実施回数	件数	成績	< 10	10 ¹⁻²	10 ²⁻³	10 ³⁻⁴	10 ⁴⁻⁵
枝肉	O157	12	36	陰性36	-	-	-	-	-
	大腸菌群数 ($\frac{1}{1cm}$)	54	803		786	15	1		1
	一般細菌数 ($\frac{1}{1cm}$)	53	787		141	373	245	28	
食肉	大腸菌群数 ($\frac{1}{1cm}$)	1	6		6				
	一般細菌数 ($\frac{1}{1cm}$)	1	6		2	2	2		
器具類	大腸菌群数 ($\frac{1}{1cm}$)	1	22		21				1
	一般細菌数 ($\frac{1}{1cm}$)	1	22		4	8	8	1	1

(2) 食品衛生月間

食品衛生月間(8/1~8/31)に合わせて枝肉等の拭き取り検査を実施し、家畜の出荷者に対しては清潔な生体搬入を、食肉業者には衛生的な食肉の取扱いを呼びかけるピラを配布した。さらにと畜場入り口に垂れ幕及び立て看板を設置して来場者の衛生意識の高揚を図った。

(3) 従事者の衛生教育

と畜従事者全員を対象として、7月9日(水)及び9月2日(火)にと畜場の衛生管理、及び衛生的なと畜処理について講習を行った。
従事者の着衣・器具について、消毒前後のふきとり検査等を実施し、その結果と作業実態に基づいた衛生講習を行い、理解を深めた。

(4) 食品営業許可施設の監視指導

と畜場に併設する食肉処理業、食品の冷凍冷蔵業等の食品営業許可施設については、毎月1回監視を実施し、不適事項については改善するよう指導した。

3 と畜検査データフィードバック事業

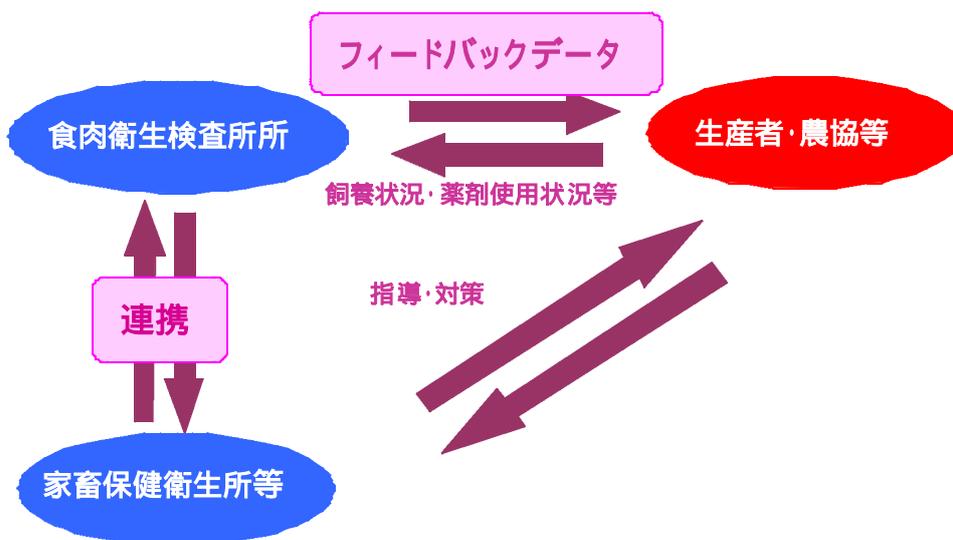
(1) 生産者等へのフィードバック

食肉の安全性確保対策の一環として、平成6年4月から検査データ・フィードバック事業を継続している。

と畜検査で得た家畜の疾病状況を1ヵ月ごとのデータとして取りまとめ、家畜保健衛生所及び生産者へフィードバックしている。

当検査所、家畜保健衛生所及び生産者が連携、協力していくことで、家畜の疾病排除、疾病予防、生産性の向上、ひいては安全な食肉の提供に寄与している。

検査データ還元フロー



フィードバック事業参加者

区分	牛	豚
家畜保健衛生所	3	3
生産者	31	28

(2) 臨床獣医師へのフィードバック

臨床獣医師から診断動物についての検査内容にかかる問い合わせが77件あり、健康な家畜の生産現場との連携を図った。

4 検体採取等の協力

依頼者	検査目的	検体
(国)鳥取大学農学部獣医学科	受精卵移植に関する研究	豚および牛の卵巣
	牛の蹄病に関する研究	牛の後肢蹄関節
(株)西日本JA畜産名和農場	肺病変の確認検査	豚の肺
鳥取県中小家畜試験場	豚の受精卵移植に関する研究	豚の卵巣
鳥取県福祉保健部健康対策課	日本脳炎、感染症流行予測調査	豚の血液
(独)家畜改良センター鳥取牧場	牛の体外受精試験	牛の卵巣
	家畜人工授精師の講習会	牛の子宮および卵巣
鳥取県農林総合研究所畜産試験場	牛の受精卵の凍結保存及び融解技術の開発	牛の卵巣
鳥取県倉吉家畜保健衛生所	家畜人工授精師の講習会	牛の子宮および卵巣
	牛の肺炎調査	牛の肺

5 調査、研究

豚と畜解体ラインで、より衛生的な処理が行われるよう、枝肉等の細菌汚染状況について調査し、解体ラインの各工程について指導の一助となるよう努めた。牛白血病が多発する傾向にあったため、発生状況等について調査した。

6 食肉衛生検査所PR事業

食肉の安全安心に対する消費者等の関心の高まりとともに、食肉衛生検査所へ来所する人が増加している。20年度には下記の視察・研修を受け入れ、事業説明・PR等を積極的に行った。

来訪等団体名簿及び実施講習会

月 日	来訪団体名	人数	備考
5月16日(金)	生活環境部関連新規採用職員	20名	視察研修
6月11日(水)	鳥取大学医学部付属病院	4名	医師卒後臨床研修
7月10日(木)	鳥取大学医学部付属病院	3名	医師卒後臨床研修
9月 3日(水)	鳥取大学医学部付属病院	3名	医師卒後臨床研修
10月30日(木)	鳥取大学農学部獣医学科5年次学生及び担当教官	38名	公衆衛生学実習
10月27日(月)	倉吉農業高等学校生徒及び担当教諭	13名	就業準備出前講座(農業教育支援事業)
3月 3日(火)	相模女子大学生徒及び教員	27名	食の安全現場視察
合 計		108名	